



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
3/11 (月)	+ 400	▲ 1,500	▲ 1,100	国庫短期証券発行償還 (3M・6M)	国債補充供給 + 29,800 CP等買入 ▲ 100	国債買入 + 13,000	日：GDP (10-12月期改定)
3/12 (火)	トン	+ 2,000	+ 2,000			CP等買入 + 4,000	日：国内企業物価指数 (前年比) (2月) 米：CPI (2月)
3/13 (水)	トン	▲ 26,000	▲ 26,000	国債発行 (5年) 源泉税揚げ			日：春闘集中回答日
3/14 (木)	トン	+ 4,000	+ 4,000				米：小売売上高 (2月) 米：PPI (2月)
3/15 (金)	トン	▲ 12,000	▲ 12,000	国債発行 (5年・個人) 国債償還 (個人)			日：春闘第一回回答集計結果公表 米：鉱工業生産 (2月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、税・保険揚げ等により、前営業日対比4兆6,800億円減少の530兆4,700億円から始まった。その後、国債発行、国債買入オペ等の要因により変動し、8日には、530兆1,900億円 (速報) まで減少し越週となった。無担保コールON物は週初▲0.006%から始まった。その後は出し手の放出ニーズが強まったため低下基調を辿り、7日の同金利は▲0.011%となった。週末3日積みである8日は取り手の調達意欲が旺盛となり、同金利は▲0.010% (速報) まで上昇した。ターム物は1W~1M物を中心に▲0.005%~▲0.001%のレンジで出が見られた。来週の予定は、国内では、11日にGDP (10-12月期改定) の公表、13日に春闘集中回答日、海外では12日に米CPI (2月)、14日に米PPI (2月) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.010 ~ 0.010
2M	0.000 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レボ>

足許GC取引は週を通して▲0.110%~▲0.095%の狭いレンジで推移した。短国の発行が重なった8日も水準に変化は見られなかった。SC取引は2年438~458回債、5年149~163回債、10年350~373回債、20年180~187回債、30年65~81回債、40年13~16回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.03 ~ 0.10

<CP>

今週の入札発行総額は約9,500億円で、週間償還額約1兆600億円を下回った。発行市場は、償還分のロール発行を中心に相応の発行が見られた。発行残高は先週末時点の27兆279億円から3月7日時点で27兆2,913億円に減少した。発行レートは、概ねベース台半ばから後半での出合いが中心であった。7日にCP等買入オペが予定通り4,000億円でオフアされた。結果は、按分レート0.032% (前回0.011%)、平均落札レート0.057% (同0.03%) と按分レート、平均落札レート共に前回比で上昇した。

来週の償還額は、約1兆4,600億円となっている。発行市場は、事業法人を中心に決算期末の有利子負債圧縮に向けた償還が増加すると見込まれる。発行レートは、金融政策変更への警戒感等の高まりを受け上昇余地を探る展開が見込まれる。

<TDB>

7日の6M (1217回債) の入札は、最高落札利回り0.0418% (前回債▲0.0882%)、平均落札利回り0.0259% (前回債▲0.1042%) となった。8日の3M (1218回債) の入札は、最高落札利回り▲0.0409% (前回債▲0.0856%)、平均落札利回り▲0.0606% (前回債▲0.0960%) となった。来週は、15日に3Mの入札が予定されている。